

## 巻頭言 「それは私です」

宇野 元

黒人霊歌のなかに、次のような歌があります。(『讃美歌 21』 306 番)

あなたはそこにいたか、人々が主を十字架につけたとき  
ああ！ ときおりそれを思うと、おそろしい！ おそろしい！ おそろしい！  
あなたはそこにいたか、人々が主を十字架につけたとき

そのとき、群衆ががなり立てました。十字架につけろ！ 弟子たちは悲しみ、自分の無力を思いながら、イエスが十字架につけられるのを眺めていました。時空をこえて、深く心を探るように問いが語られます。あなたはそこにいたのか？ 十字架上で苦しむイエスを前に、興奮して叫ぶ人々。なすすべもない弟子たち。なんと酷いことだろう。その場所に、あなたもいたのか？

\*

バッハの「マタイ受難曲」のなかに、次のようなコラールが出てきます。(『讃美歌 21』 295 番)

それは私です。私こそ償うべきなのです。手足を縛られ、地獄に落ちて。  
鞭と縄、そしてあなたが耐えられたものは、私の魂が受けるべきなのです。

最後の食事をしている席で、突然イエスが弟子たちに告げます。わたしを裏切る者がいるだろう。弟子たちはまごついて、まさか私のことですか、と騒がしく尋ねます。主よ、それは私ですか？ すると、静かに、きっぱりと、信仰共同体の歌が響きます。「それは私です。」

\*

受難節の教会学校で、ヨハネによる福音書 19 章 17 節を念頭にお話をしました。「イエスは、自ら十字架を背負い、ゴルゴタという所へ向かわれた。」イエス様は、とっても大きな木の十字架を背負われました。おんぶしたことある？ 重いでしょ。イエス様は、わたしたちみんなをおんぶしてくれました。教会の十字架をみあげるとき、わたしたちはイエス様に背負われていることをおぼえます。